

「剣道の鏡野」

全国に鳴り響く

昭和三十一年（一九五六）十月、兵庫県赤穂高校体育館において、兵庫国体剣道大会高校の部が開催されました。これに先立ち八月にインターハイで三位、九月の中国五県高校剣道大会では前年に続き二連覇を達成した鏡野高校剣道部は、決勝リーグに駒を進めました。

優勝が期待され、町長をはじめ町の関係者や保護者、生徒達が応援に駆けつけ見守る中、決勝リーグ第一戦で徳島農業高校を破り、いよいよ優勝へ王手、第二戦はこの年のインターハイ優勝校である中部地区代表の中京商業高校。息詰まる熱戦が展開され、勝敗は大将戦までもつれこみ、一進一退の攻防の末、時間切れ間際に米沢選手の飛び込み胴が見事決まりました（写真1）。鏡野高校剣道部、初の全国制覇の瞬間です。

鏡野高校は、昭和二十三年（一九四八）、興和高等学校として設立、二十八年に鏡野高等学校と校名を改め、四十一年に津山東高等学校鏡野分校となり、昭和六〇年（一九八五）に閉校するまで寺元にあった高校です。



写真1 昭和31年 国体優勝の瞬間

す。

鏡野高校剣道部は、昭和二十七年に五人の部員で創設され、創設当初から各地の大規模な大会で好成績を挙げ、この兵庫国体においてようやく念願の日本一を成し遂げたのです。その後も中国・全国規模の大会で上位成績の常連校となり、「剣道の鏡野」の名は全国に広がりしました。そしてその名を不動のものにしたのが、昭和三十七・八年の国体・インターハイでの優勝でした。

昭和三十七年（一九六二）は、地

元岡山県開催の国体への出場と優勝に向けて、部員達は厳しい稽古を重ね、岡山県代表の座を獲得、そして見事優勝を飾り、地元の期待に大いに応えました。翌年には、インターハイ決勝でライバル・嘉穂高校（福岡県）を四対一で圧勝し、インターハイ初優勝を遂げ、国体でも決勝戦鹿児島商業高校に五対〇の貫禄勝ちをおさめ、この年は二冠に輝きました。

最終的に鏡野高校の優勝回数は、インターハイ一回、国体四回、中国大会十三回、県大会十五回を数え、上位入賞に至っては数え切れないくらい誇るべき実績を残しました。

この輝かしい功績の功労者が、鏡野高校の教師で剣道部の指導者であった極楽寺住職・表江智舟先生です。表江先生の指導方法は、単なる技術指導だけでなく、剣道を通した人間形成の道を説き、部員のみならず鏡野高校生徒らにも大きな影響を与えました。また、地域の活動にも貢献し、町文化功労表彰受賞、鏡野

写真2 昭和38年 インターハイ優勝
(提供：津山東高等学校)写真3 闘魂の碑と表江智舟先生胸像
(文化スポーツセンター前)

町名誉町民にも推挙されました。

鏡野高校剣道部OBは、卒業後も町内や全国各地で選手として、指導者として活躍し、全日本選手権や世界選手権などで上位の成績をおさめた方もおられ、剣道界に多大な貢献を果たしています。

現在は町内に高校はありませんが、スポーツ少年団や中学校の剣道部などで豆剣士が竹刀の音を響かせています。この中から再び鏡野の名を全国に響かせてくれる剣士が育つてくれることを大いに期待したいです。

参考資料：『かがみの「閉校記念誌」、『雪割校』、『東雲』、『鏡野町史』通史編
協 力：岡山県立津山東高等学校

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733